

## 未来医療研究人材養成拠点形成事業 申請書

申請担当大学名 (連携大学名)	大阪大学		
テーマ	テーマB	申請区分	単独事業
事業名 (全角20字以内)	地域に生き世界に伸びる総合診療医養成事業 ～超高齢社会を切り拓くリーダー型高度医療人養成～		

### 1. 事業の構想 ※事業の全体像を示した資料(ポンチ絵1枚)を【様式2】の後ろに添付すること。

#### (1) 事業の全体構想

##### ①事業の概要等

<p>〈テーマに関する課題〉</p> <p>◇<u>ニュータウンでの高齢者人口の爆発的増加の問題</u>：大阪府の高齢者人口増加率は高く、2030年には後期高齢者が165万人まで増加する。大阪大学近隣の千里ニュータウンでは、行政とデベロッパーが中心となり街の活性化再生指針を示しているが、医療について地域包括ケアシステムの観点に乏しく、独居高齢者や老老介護の増加、認知症患者の増加に伴う医療問題が顕在化している。</p> <p>◇<u>ニュータウン再生に求められる医療面の課題</u>：多様な医療（総合診療、在宅医療、認知症対応、緩和ケア、在宅看取り等）に対応できる総合診療医の養成。多様な医療を包括的かつ柔軟に提供できる能力、多職種連携においてリーダーとなれる能力、高齢化に伴う地域の特徴を抽出して問題解決を提案できる能力などの涵養が求められる。</p> <p>◇<u>ニュータウン再生を10～20年後の輸出産業とするための医師養成の課題</u>：ニュータウン再生は、高齢化が進む諸外国に新しい社会保障システムとして輸出可能である。新しいシステムづくりに貢献できるリサーチマインドの高いリーダー型の医師として総合診療医を養成することが求められる。取り組むべき課題は、世界への情報発信能力、地域包括ケアシステムを医学的視点以外からも捉えられる能力、高度先進医療やロボット技術にも精通した能力などの涵養である。</p> <p>〈事業の概要〉（400字以内厳守）</p> <p>大阪大学の「地域に生き世界に伸びる」という理念を、超高齢社会の医療システム充実や世界に発信できる社会システム構築に反映できる研究人材を養成する。本事業の柱は、</p> <p>①地域の高齢者医療においてリーダーシップを発揮できる総合診療医の養成、</p> <p>②世界に発信すべき社会システム構築に貢献できるリサーチマインドを持った人材の養成、の2点である。</p> <p>大阪大学に課された大きな地域的課題である千里ニュータウンの再生に、リーダー型総合診療医養成の観点から貢献し、ニュータウン再生プランの輸出産業化に向けて世界に情報発信する。臓器別の高齢者に対する高度医療の一元的教育や、研究と連携した実習教育、医学以外の分野との連携による教育などによりリサーチマインドを涵養し、海外研修も含め世界への情報発信力強化を図る。多面的なプログラムは、卒前・卒後教育の様々な場面で参加可能で、相互補完を持たせることにより多様な人材を育成する。</p>
---

## ②新規性・独創性

◇「地域に生きる」：都市型超高齢社会の医療問題への取り組みとして、大学の対応は医師派遣と考えられがちであるが、10年後に十分な総合診療医を確保するためには、個々に患者対応できる医師を教育するだけでは時間的にも量的にも不足する。本事業は、大阪大学のリソースを活用して、将来的にリーダーシップを持って地域の医師教育に対応できる医療人を養成することで、都市型超高齢社会の問題に対応する点で新規性がある。同時に、ニュータウンでの在宅医療に触れる実習時間を150時間と豊富にしたプログラムを介してニュータウン再生における高齢者医療の問題を総合的に抽出できる能力の涵養をめざしつつ地域との連携も図る。大阪大学の現場に根差した研究者を育て地域への貢献度を高める意味で新規性が高い。

◇「世界に伸びる」：事業全体を通して、国内だけでなく、海外に情報発信能力を持った人材を養成する多面的なプログラムを準備することに独創性がある。特に、老年学や統計学の海外研修を推進する。語学教育だけでなく、世界の老年学研究とその展開の方法論を学ぶことで、学生の老年学に対する意欲向上を期待させる。大阪府内で最近特に大きな問題となっている地域（千里ニュータウン）における爆発的な高齢化の問題と対策を学びつつ、日本の問題と捉えられがちな課題をグローバルに起こりうる世界のニュータウンの問題として捉える能力を涵養する両面からの人材育成は新規性が高い。本申請では研究と連動させた教育もプログラムされており、社会システムの構築や超高齢社会の医療の在り方について大阪大学から世界をリードできる研究推進も期待される。

◇診療科横断的、学部横断的教育による健康長寿に関するリサーチマインドの涵養：本学のほとんどの診療科が高度医療を対象としているが、その中でも高齢者を意識した医療開発や導入が進められている。学生や初期の医師教育の段階で、一元的教育を受けることで新しい高齢者医療を提案できる人材の育成が期待できる。学部横断的な研究が進んでいる本学においては、既に臨床医工学融合研究教育（MEI）センターがあり、高齢者医療でも連携できることは多く、新たな視点を持った総合診療医養成が期待できる。別のプログラムでは、学部横断的に大阪大学で進めている関西健康長寿研究（SONIC研究）への参加を介して多職種連携とリサーチマインドの涵養を行う。都市部と農村部の70歳・80歳・90歳・百寿者を3年ごとに医学、歯学、人間科学、保健学など様々な角度から観察する研究で、大阪大学独自の展開でもあり、多職種連携を実地に学ぶ点からも独創的である。

◇養成された人材の活動を全学的に支援できる体制への取り組み：上記の教育により養成する総合診療医の受け皿は、地域であり、世界であるが、本プログラムにおける学部横断的教育システムの充実を介して全学的な支援体制を構築する。本学には老年学全般に関係する学部、大学院は多く、既に統合的な活動を目的として大阪大学老年学研究会を学部横断で立ち上げている。ニュータウン再生問題に大学を挙げて取り組める体制を目指しており、本事業もこの全学的体制づくりと連携することで事業展開の途中段階でも、更なる新規性・独創性の展開が期待できる。

## ③達成目標・評価指標

◇達成目標：超高齢社会における課題を問題提起して解決できる人材の育成を達成目標とする。具体的には、地域の高齢者医療においてリーダーシップを発揮できる総合診療医と、世界に発信すべき社会システム構築に貢献できるリサーチマインドを持った研究人材を育成することである。ニュータウン再生における地域包括ケアシステムのあり方について本事業の人材育成の過程で得られた事業実施者らの研究成果を応用することを副次的な達成目標とする。

◇評価指標：6つのプログラムの受け入れ目標人数（2,280名/5年）に対する総履修者数。総合診療医として活躍できる総合診療専門医、老年病専門医の研修プログラム参加者数（目標25名/5年）。本事業のプログラムに参加し（講義あるいは実習の一部でも可）、総合診療専門医、老年病専門医を含む専門医を取得した者の数（目標50名/5年）。プログラム参加者が筆頭著者の英文論文数（目標10篇/5年）、共著者での英文論文数（目標20篇/5年）。海外研修派遣者数（目標10名/5年）。本事業の成果を地域に還元するために、事業責任者らが実施している活動の取り組み状況（地域医療や行政との交流など）。

◇参考評価指標：本事業責任者らが、育成した人材の活躍の場を真に意義あるものにするために、全学に働きかけて老年学の学際研究・教育体制構築への取り組みをしているかをその具体性、実現可能性などによって評価する。医療の面だけでは解決できない問題への取り組みを啓発するプログラムを備えた本事業で育成された人材は、医学だけにとどまらず広く老年学の分野で活躍しうる能力を持つと期待され、継続的な活動の場（大阪大学老年学学際研究部門構想）の提供が本事業の意義を高め、真の社会貢献につながる。このような観点からの評価は重要であるが、直接的には事業の補助内容にあたらぬ取り組みであるため参考評価のレベルに留める。

#### ④医学生・男女医師のキャリア教育・キャリア形成支援（※取組がない場合は記入不要）

◇医学生のキャリア教育：卒後15年程度までのキャリアパスを示す特別講義を行っている。女性医師のキャリア中断の要因やその復職、男女協働によるキャリア継続などの課題についてもロールモデルを提示して教育している。今後さらに、少人数によるチュートリアル教育のパターンを取り入れて、男女協働の問題を含めて学生自身に議論させることでキャリア教育を発展させる予定である。また、early exposureの形で学部入学時からの取り組みがあるが、医師としての心構えや倫理、多職種連携の教育にはなっているものの、大阪大学が目指す「地域に生き、世界に伸びる」を早期から意識させることも重要であると考え、在宅医療や、本学が持つ高度医療の現場への見学体験やシミュレーターによるデモンストレーションなども組み込む予定である。

◇男女医師のキャリア形成支援：卒後教育開発センターが中心となって取り組む。初期臨床研修医へのロールモデルの提示はその一つで、地域医療研修での高齢者医療を含めた総合診療医としてのキャリア提示に加え、総合診療科および老年内科の選択研修において在宅医療との連携を図った実習を実施している。今後は、キャリア形成支援センターを設置して、勤務医から在宅医に転じる際の教育支援プログラムの設置、女性医師の復職支援、カウンセラーによるメンタルサポートなどを行うべきと考えている。本事業途中で実現できれば、一部のプログラムについてインテンシブコースを追加する。

◇男女参画・コメディカル教育の充実：大阪大学医学系研究科保健学専攻には、看護師、臨床検査技師、放射線技師を目指す女子学生が全国から多く集まっている。さらには、学生数に占める女子学生の比率の高い薬学研究科、歯学研究科もあり、医師以外の医療専門職の研修施設としても卓越している。このような大阪大学の特徴を活かして、これらの学生も本プログラムで学べるように便宜を図る。

#### (2) 教育プログラム・コース → 【様式2】

## 2. 事業の実現可能性

### (1) 事業の実施体制

◇「大阪大学高度医療人養成事業推進協議会」：協議会組織は、下記の事業管理委員会が統括し、各プログラム管理委員会代表、連携体制に記載する主な機関（自治体、医師会を含む）の代表、患者代表から構成する。

◇「事業管理委員会」：医学系研究科長（委員長）、病院長（副委員長）、教育担当副研究科長、医学科教育センター長、卒後教育開発センター長、未来医療開発部部長、総合診療部部長、老年内科学教授、総合地域医療学寄附講座教授、医学部事務部長、病院事務部長らから構成し、事業の最終責任を担う。各プログラム・コースの実施にあたり、診療科間・部局間の調整、連携する機関との調整において主導的役割を果たす。定期的（年2回以上）に自己評価を行い、事業目標到達に向けてプログラムの改変の討議を行うとともに、外部評価機関による評価に対応して事業内容の改変計画も立案し、事業推進の責任を果たす。

◇「プログラム管理委員会」：プログラムごとに設置する。委員長（事業管理委員会代表）、プログラム実施に関連する診療科と連携機関の各代表、委員長指定の委員を構成メンバーとする。

◇「プログラム推進事務局」：医学科教育センターと卒後教育開発センターが合同で担当する。既存の学部・大学院講義や実習との連携、海外研修の実施推進、連携施設や外部評価委員会との連絡調整などを行う。プログラム履修者の募集やプログラム修了要件の認定なども統括する。

(2) 連携体制（連携大学、自治体、地域医療機関、民間企業等との役割分担や連携のメリット等）

◇大阪大学MEIセンター：臨床医工学を用いた在宅医療専門コースでの講義・演習・実習。  
 ◇大阪大学医学系研究科保健学専攻・歯学研究科・人間科学研究科：リーダー型高齢者総合診療医養成コースの実習、老年医学・在宅医療学に関する講義と演習の一部  
 ◇NPO法人臨床研究・教育支援センター：介護ロボットの实地介護試験に関与  
 ◇大阪大学老年学研究会：大学内の学部横断的研究組織で、本事業で養成された人材のプログラム終了後の研究や、継続的に老年学的視点で総合診療を行える能力の涵養を支援する。  
 ◇市立堺病院総合内科・伊丹市立病院老年内科・医療法人協和会・医療法人錦秀会・おおさか往診クリニック・吹田市地域包括支援センター：関係するプログラムの臨床実習を実施する主要機関。教育にあたっては、本学教員や本事業で雇用された特任教員が共同で実施する。  
 ◇吹田市・豊中市：大阪大学近隣のニュータウンである千里ニュータウンの所在地。ニュータウン再生計画における地域包括ケアシステムのあり方を本事業責任者らと協議し、本事業実施者らの研究成果のニュータウン再生への応用可能性を評価し、事業を支援する。  
 ◇吹田市医師会：在宅医療問題への取り組みについて、医師会活動と連携する。

(3) 事業の評価体制

◇プログラム管理委員会による自己評価：年2回以上の委員会開催時に、当該年度のプログラム履修者数、履修状況の評価する。フィードバックを次年度プログラム履修者獲得のための方策、プログラム履修内容の改訂の必要性の討議に反映させる。  
 ◇事業管理委員会による自己評価：年2回以上の委員会開催時に、各プログラム委員会委員長からの報告を受け、プログラム履修内容の改訂の必要性について決定する。事業の全体構想と達成目標・評価指標で示した総合評価を自己評価する。年1回の外部評価の結果について、事業計画にフィードバックすべき点を討議する。  
 ◇外部評価：第3者機関としての外部評価委員は、国立長寿医療研究センター、大阪府健康医療部、大阪府立病院機構、吹田市医師会、豊中市医師会、吹田市役所、吹田保健所、大阪大学国際交流センターなどの機関からの代表者で構成する。年度ごとの本委員会の評価を持って、事業の評価とする。評価内容は、事業管理委員会によって作成された自己評価内容、事業の達成目標の達成状況、将来展望のための取り組みに関する評価である。さらに、ニュータウン再生に向けた取り組みとしての視点からも評価を加え、プログラム自体の評価と改善の可能性について提示いただく。

(4) 事業実施計画

25年度	① ～9月 大阪大学高度医療人養成事業推進協議会（推進協議会）の設置と事業概略（案）承認のための事業管理委員会の開催 ② 9～10月 プログラムに協力いただく診療科や部署ならびに連携体制に記載の連携機関に対して、事業ならびにプログラム作成への協力依頼のための訪問依頼の実施 ③ 11～12月 個別にプログラムのカリキュラム作成ならびに評価指標決定のためのプログラム管理委員会の開催 ④ 10～1月 吹田市と豊中市への協力依頼と千里ニュータウンに関する地域包括ケアシステムの実態把握のための保健所、医師会、在宅医への調査 ⑤ 1月 プログラムの承認と次年度に募集を開始するための事業管理委員会の開催 ⑥ 10～3月 各プログラムで用いる講義・演習テキスト等の準備及び講義・演習等の実施 ⑦ 10～3月 各プログラムの実習担当機関とカリキュラム内容の打ち合わせ
26年度	① 4月 プログラム・コース参加者に修了要件と履修方法を説明するためのオリエンテーションを実施 ② 10月 次年度プログラムのカリキュラム作成のためプログラム管理委員会開催 ③ 11月 次年度プログラムと募集要項の承認のための事業管理委員会の開催 ④ 12月 プログラム全般と進捗状況について評価するための外部評価委員会の開催 ⑤ 2月 プログラム管理委員会による自己評価のための委員会の開催 ⑥ 3月 プログラム管理委員会の自己評価に基づいた事業管理委員会としての自己評価と外部評価委員会の評価を加えてプログラム改善について討議するための事業管理委員会の開催
27年度	平成26年度と同様の計画

28年度	平成26年度と同様の計画
29年度	① 4月 プログラム・コース参加者に修了要件と履修方法を説明するためのオリエンテーションを実施 ② 10月 事業全般の自己評価と報告書作成準備のためのプログラム管理委員会開催 ③ 11月 事業全般の自己評価と報告書作成準備のための事業管理委員会の開催 ④ 12月 プログラム管理委員会による最終の自己評価のための委員会の開催 ⑤ 1月 事業管理委員会による最終の自己評価のための委員会の開催 ⑥ 2月 事業全般について最終評価のための外部評価委員会の開催

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪大学医学部
プログラム・コース名	高齢者医療卒前教育コース（阪大Aコース）
対象者	医学部医学科3年～6年の医学生
修業年限（期間）	4年
養成すべき人材像	すべての医学生に対して基礎教育のレベルアップを図り、総合診療の意義と社会的役割、超高齢社会における社会医療の問題点、男女協働における課題と対策について理解でき、自身のキャリア形成の計画概要を立案でき、グローバルに活躍するためのコミュニケーション能力を持つ人材を養成する。 一部の選択実習学生に対しては、研究への参画の機会、海外での総合診療学・老年医学の実態や研究を学ぶ機会を与え、総合診療や老年医学の研究・臨床の指導的立場に立てる人材、グローバルに活躍できる素養を持った人材を養成する。
修了要件・履修方法	卒業認定をもって修了とする。 履修方法は、講義、実習、セミナーへの出席。 短期留学による研修は、希望者のみ5年次選択実習の一つとして履修する。
履修科目等	<p>◇講義</p> <p>3年次：現代教養科目(医、歯、薬学部学生が参加)：医療倫理、終末期医療 4年次：老年内科学、総合診療 5年次：臨床医学特論（学部横断的講師陣による高齢者医療の集中講義） 在宅医療、緩和ケア、生活習慣病（医学部）、認知症対策、在宅看護（看護学部）、歯の加齢、嚥下障害（歯学部）、認知機能と行動学（人間科学部）、高齢者への処方への注意点、服薬指導（薬学部）、倫理学(法学部、文学部)</p> <p>◇実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年次の基礎医学講座配属、4年生の環境医学・公衆衛生学実習（研究者育成のための基礎コース）：高齢者医療をテーマとした調査・研究コースを設け、医学科の他、医学部保健学科、歯学部、薬学部、人間科学部などへの研究配属も可能とする。</li> <li>・5，6年次の学内臨床実習（<u>終末期医療、多職種連携などを学ぶ</u>）：附属病院緩和ケアチーム、栄養管理チーム、褥創管理チームの病棟回診、検討会に医学部学生が参加するカリキュラムを構築する。また、高齢者医療をテーマとした保健学科、薬学部学生との合同カンファレンスを開催する。多職種連携によるチーム医療の中での医師の役割と指導者としての役割を学ぶ。</li> <li>・5，6年次の学外臨床実習（<u>在宅医療、認知症医療、終末期医療を学ぶ</u>）：淀川キリスト教病院、おおさか往診クリニック、阪和泉北病院など</li> </ul> <p>◇キャリア教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・early exposure（プログラム外の1～2年次を含む）：在宅医療同行、高度医療の見学体験、シミュレーターでのデモンストレーション</li> <li>・5年次：卒後15年程度までのキャリアパスの特別講義。女性医師を含め、卒後10～15年の医師についてのロールモデルを提示。</li> <li>・5年次：男女協働に関する少人数でのチュートリアル教育</li> </ul> <p>◇総合診療実践プライマリケアカンファ（希望者）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市立堺病院総合内科から講師を招いて毎月定例で症例カンファを実施。学生・研修医対象。学生企画の症例カンファも支援する。</li> </ul> <p>◇海外研修（5年次選択実習期間の希望者）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者医療、緩和医療に興味のある学生に対して、欧米の大学への短期留学を通じて、国際的な視野を持った人材を養成する。医学英語教育も実施する。</li> </ul>

<p>教育内容の特色等 (新規性・独創性等)</p>	<p>◇<b>講義</b>：すでに医学教育モデル・コアカリキュラムを重視した老年内科学を充実させているが、さらに、<u>多くの医療系学部を持つ大阪大学の特色を生かし、医学部（医学科、保健学科）、歯学部、薬学部、人間科学部などの協力のもとで、多職種連携を重視した臨床教育を実施する。</u></p> <p>◇<b>実習</b>：<u>学生のリサーチマインドを涵養するための実習カリキュラムを重視し、緩和医療、在宅医療、認知症対策など、高齢者の総合診療に関するさまざまな視点での臨床実習、研究の機会を提供する。大学病院や研修病院クラスでの実習に加え、これまで十分な指導医がいないために実習が難しかった在宅医療の診療所、高齢者の急性期から寝たきりを含む慢性期までを対象とした医療機関、老健施設を持つ医療機関での実習を実現させるために、<u>大学教員を教育用スタッフとして派遣する。</u>教育の質を担保したうえで、より実践的な高齢者医療・総合診療を実施できる体制の構築は新規性が高い。</u></p> <p>◇<b>キャリア教育</b>：<u>リサーチマインドの涵養をキャリア形成教育の基本とする点</u>が本学の特徴である。学生がリサーチマインドの必要性を早くから理解できるような企画内容にしている。男女協働の教育にチュートリアルを取り入れることは他大学でも実施例があるが、<u>多職種を交えたチュートリアル教育を企画しており独創的</u>と考える。</p> <p>◇<b>プライマリケアカンファ</b>：<u>急性期病院における毎日の診療を題材とした症例カンファレンス</u>は、高度医療や慢性期疾患を対象とすることの多い大学病院のカンファでは教育が難しい。外部医師の協力を得て行う本カンファレンスは、研修医対象で開始して1年が経過し、最近では学生も加わって立ち見が出る状況である。<u>学生自身が企画するカンファレンス</u>も相談を受けており、積極的に支援する。学生が自主的に学ぶことを支援する形式が新しい。</p> <p>◇<b>海外研修</b>：本事業の特徴である「<u>世界に伸びる</u>」を早期から体験学習させる。これまでの海外研修のノウハウを用いて、本事業に合致した研修を企画する。海外研修希望者が多い大阪大学の特色を生かした教育でもある。</p>						
<p>指導体制</p>	<p>◇本プログラム担当教員および医学科教育センター教員が、カリキュラム案を作成し、教務委員会の了承のもとに、本プログラムを実施、評価する。</p> <p>◇学内での指導体制は、医学部医学科教員を中心として、医学部保健学科、薬学部、歯学部および人間科学部教員が、講義および実習の指導を担当する。</p> <p>◇学外では、実習病院・診療所の指導医（原則として<u>大阪大学臨床教授、准教授</u>）が指導を担当する。一部、教育スタッフが十分でない医療施設における実習に際しては、<u>本事業のために雇用する大学の教育スタッフを派遣する。</u></p> <p>◇チーム医療の実習ではチームを構成する医師、看護師、薬剤師、管理栄養士が学生を指導する。</p> <p>◇海外研修については、<u>医学科国際交流センターの医師が中心に調整し、発表会などで研修内容を発表させて教育の定着を図る。</u></p>						
<p>受入開始時期</p>	<p>平成25年10月</p>						
<p>受入目標人数</p>	<p>対象者</p>	<p>H25年度</p>	<p>H26年度</p>	<p>H27年度</p>	<p>H28年度</p>	<p>H29年度</p>	<p>計</p>
	<p>医学生</p>	<p>440</p>	<p>440</p>	<p>440</p>	<p>440</p>	<p>440</p>	<p>2,200</p>
	<p>海外研修の医学生(再掲)</p>	<p>0</p>	<p>3</p>	<p>3</p>	<p>3</p>	<p>3</p>	<p>0</p>
	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p>0</p>
	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p>0</p>
	<p>計</p>	<p>440</p>	<p>440</p>	<p>440</p>	<p>440</p>	<p>440</p>	<p>2,200</p>

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪大学大学院医学系研究科医学専攻、大阪大学医学部附属病院
プログラム・コース名	医工連携型高齢者在宅介護医療モジュール開発のための医師・研究者の養成コース（阪大Bコース）
対象者	医学部医学科4～6年の医学生、大学院生、後期研修医
修業年限（期間）	1～2年
養成すべき人材像	臨床医工学を用いた在宅医療へのリサーチマインドを持った医学生、大学院生、医師を養成し、将来的に高齢者の在宅介護医療に目を向けた医師や研究者を育成することを目標とする。
修了要件・履修方法	修了要件は、必修科目の修了、選択科目の講義のaまたはbの履修、選択科目の実習a～cから合計20時間の履修のすべてを満たすこととする。 ただし、医学生については、選択科目の講義は通常授業の範囲で学習するため卒業認定をもってこれに替える（選択科目の講義の免除）。 講義の履修方法は、講義への出席またはeラーニングでの受講（個々に認定試験の合格を要する）とする。 演習の履修方法は、指定されたセミナーへの参加とする。
履修科目等	<p>&lt;必修科目&gt;</p> <p>◇講義：在宅医療学（2単位）；阪大Cコースの老年医学・在宅医療学・緩和医学の講義から本コースに適した講義を選択</p> <p>◇演習：臨床医工学（5単位）；大阪大学臨床医工学融合研究教育（MEI）センター、医学部附属病院未来医療開発部におけるセミナーへの参加</p> <p>◇実習：臨床医工学（10時間）；MEIセンターでの介護ロボット実習など</p> <p>&lt;選択科目&gt;</p> <p>◇講義（2単位）：下記の講義から選択</p> <p>a. 臨床医工学：MEIセンターでの医工学に関する系統講義</p> <p>b. 医学統計学：医学統計専門家（未来医療開発部など）の系統講義</p> <p>◇実習（20時間）：下記のプログラムから履修（10時間単位に分割可）</p> <p>a. 在宅医療学：総合地域医療学寄附講座教員によるりんくう総合医療センターなどでの在宅医療や緩和ケア診療を含めた実習</p> <p>b. 臨床統計学：未来医療開発部データセンターにて包括的な実習</p> <p>c. 先進医療学：未来医療開発部にて開発中のシーズに関する研究に直接関与する</p>

<p>教育内容の特色等 (新規性・独創性等)</p>	<p>大阪大学臨床医工学融合研究教育 (MEI) センターは、独立法人化後に最初に大阪大学に設置された組織である。本工学系研究科、基礎工学系研究科の研究室も参入しており、特に知能・機能創成工学専攻、先導的融合工学講座の浅田稔教授、石黒浩教授の研究室では種々の介護ロボットの先端的開発も行われている。学生や大学院生 (非医師の修士課程履修者を含む)、後期研修医といった若い世代に、<u>介護ロボット開発の現場を経験させ、同時に在宅医療をはじめとする高齢者医療の教育をすることは、開発者側だけでなく高齢の患者サイドに立ったニーズの発掘とアイデアの創出に有用と考えられ、独自性も高い。</u>本コースの医工連携を支えるもう一つの組織は、<u>医学部附属病院未来医療開発部</u>で、大阪大学の早期・探索的臨床試験拠点としての機能を担っている。複数の組織を内包し、①未来医療センター (iPS細胞も含む新たな先進的医療の開発)、②データセンター (臨床統計学の専門家による医師主導型臨床試験を含む多くの先端的試験の医学統計解析) を行っている。③国際医療センター (外国人診療への対応) などがあり、いずれも本事業の推進に重要な部署である。このような最先端の環境で授業や実習をできるのは大阪大学以外にはあり得ない。</p> <p>医学生、大学院生、後期研修医といった若い世代に、高齢者の介護の問題点を把握させ、臨床医工学的な演習・実習を実施する特色において、2つの新規かつ独創的視点がある。</p> <p>一つは、参加者自身に病院や家での介護の肉体的な負担を軽減させるような<u>種々のシステムのアイデアを出させることを促し、アイデアによっては介護ロボットの開発そのものにつながることを経験させること</u>である。成功体験をリサーチマインドの涵養につなげることが可能な演習・実習である。もう一つは、<u>介護ロボットの臨床試験の現場に立ち合わせることで、介護ロボットの実地介護での性能評価や問題点の把握などに関与させて、リサーチマインドを涵養すること</u>である。いずれも、<u>将来的に高齢者の在宅介護医療に目を向けた医師の育成につながる。</u></p> <p>選択コースでは、<u>医工連携での開発に必須と思われるノウハウを、開発側、受け手側それぞれの立場で学ぶ機会</u>を作っており、同じプログラムから幅広い人材を養成できる特徴がある。</p>						
<p>指導体制</p>	<p>プログラム全体の統括指導および担当教員の調整は、<u>卒後教育開発センター</u>の支援の下に、<u>総合地域医療学寄附講座</u> (山下静也教授) が担当する。</p> <p>在宅医療学の講義は、e-ラーニングを含めて他のプログラムでの講義内容を基にしており、卒後教育開発センターが運営する。</p> <p>臨床医工学と医学統計学の講義は、<u>MEIセンター及び未来医療開発部</u> (未来医療センター、データセンター) の教員が実施する。</p> <p>臨床医工学の演習と実習は、MEIセンターの教員が実施する。介護ロボットの開発試験に関する実習は、未来医療開発部、特定非営利活動法人臨床研究・教育支援センター (SCCRE) の両施設が連携する。</p> <p>在宅医療実習は、総合診療・在宅医療、緩和ケアの実習をおこなうもので、総合地域医療学寄附講座の教員、<u>りんくう総合医療センター</u>および<u>貝塚市立病院</u>の医師が協力して行う。また、<u>りんくう総合医療センター</u>は関西空港経由の海外からの救急患者受け入れを積極的に行っており、その外国人診療を見学し、語学的にも対応できる国際的人材養成も目指す。</p> <p>臨床統計学と先進医療学の実習は、未来医療開発部教員が実施する。</p>						
<p>受入開始時期</p>	<p>平成26年4月</p>						
<p>受入目標人数</p>	<p>対象者</p>	<p>H25年度</p>	<p>H26年度</p>	<p>H27年度</p>	<p>H28年度</p>	<p>H29年度</p>	<p>計</p>
<p>医学生</p>	<p>0</p>	<p>1</p>	<p>1</p>	<p>1</p>	<p>1</p>	<p>1</p>	<p>4</p>
<p>大学院生</p>	<p>0</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>8</p>
<p>後期研修医</p>	<p>0</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>8</p>
<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p>0</p>
<p>計</p>	<p>0</p>	<p>5</p>	<p>5</p>	<p>5</p>	<p>5</p>	<p>5</p>	<p>20</p>

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪大学大学院医学系研究科医学専攻、大阪大学医学部附属病院
プログラム・コース名	スーパー在宅医養成コース（阪大Cコース）
対象者	大学院生、後期研修医、非常勤医員、研究生など
修業年限（期間）	1～4年（講義や演習の履修と実習期間は離れてもよい）
養成すべき人材像	在宅医療に関連する豊富な実地臨床、最先端の医療から社会学まで幅広い老年学教育によって、超高齢社会の地域における問題を提示でき、リサーチマインドを持ってその問題解決に取り組める能力を有し、地域における在宅医療推進のリーダーとなれる人材。
修了要件・履修方法	以下の4項目を修了要件とする。 ◇講義：定期的あるいは随時開催される講義を4単位以上履修する。 ◇演習：4単位以上履修する。 ◇実習：指定の在宅診療所にて既定の時間実習を行う。日本在宅医学会専門医制度プログラムの病態（がん、認知症、神経難病など）を経験する。 ◇論文：総合診療、老年医学、在宅医療に関する論文提出（査読有）。 ◆選択科目の実習については、履修を修了要件とはしないが、大学病院や研修病院（高度医療・急性期病院）とは異なる臨床現場を知ることが、ニュータウン再生を意識した場合に重要な視点であり、履修が望ましい。
履修科目等	<必修科目> 老年医学・在宅医療学・緩和医療学についての包括的教育 ◇講義（12単位） 主な担当部署と講義テーマを示す。総合診療科（不明熱など）、内科（老年症候群、認知症、在宅医療、肺炎、高齢者の透析、脳卒中、パーキンソン症候群、リハビリテーションなど）、漢方医学科、整形外科（ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症と骨折時の対応、脊柱管狭窄症など高齢者に多い整形外科疾患、再生医療）、眼科（高齢者の眼疾患と再生医療）、耳鼻咽喉科・頭頸部外科（高齢者の難聴に対する先進医療、嚥下障害）、皮膚科（褥瘡、高齢者の皮膚疾患）、精神・神経科（認知症、高齢者のうつ、せん妄）、脳神経外科（医工連携による新規治療法）、泌尿器科（排尿障害、前立腺がん）、婦人科（子宮脱など高齢者の婦人科疾患）、感染制御部（抗菌薬の処方）、オンコロジーセンター（がん患者の在宅医療）、緩和医療学（緩和医療の必須薬剤、癌の緩和医療と高齢者の緩和医療）、医の倫理と公共政策学（医の倫理）、公衆衛生学（超高齢社会の現状と政策）、保健学科（在宅看護、介護ロボット）、歯学研究科（歯の加齢、口腔ケア、嚥下障害）、人間科学研究科（認知機能と行動学）、薬学研究科（高齢者の服薬指導、在宅医療の薬物治療）、臨床医工学融合研究教育センター（介護ロボットの開発）、工学研究科（都市デザイン）など。一部、e-ラーニングを導入する。 ◇演習（14単位）：大阪大学医学部附属病院における老年内科、緩和ケアチームのカンファレンスなど ◇実習（150時間）：週1回3時間、指定の在宅診療所にて指導医のもと在宅診療に従事する。地域包括支援センターの見学、病診連携を担うソーシャルワーカーの業務見学なども取り入れる。 <選択科目> ◆実習（40時間）老年医学実習として、公立の市中病院における老年内科、高齢者の急性期から寝たきりを含む慢性期までを対象とした医療機関、老健施設を持つ医療機関などにおける、見学を含めた実習。

<p>教育内容の特色等 (新規性・独創性等)</p>	<p>新しい医療形態である在宅医療の学問的発展は重要課題であるが、教育すべき大学のスタッフは在宅医療の実地診療経験に乏しい。本コースは、大学と研修協力関係にある医療機関での在宅医療の実地診療実習を軸として教育プログラムを構成している点に新規性がある。</p> <p>在宅医療に必須の医療技術について、<u>老年医学的視点と緩和医療学的視点を同時に教育する</u>点は、大阪大学医学部内の講座が連携する形で初めて実現できるものであり、高い学問性を備えた教育環境を持つ本学の特性を生かした独創性がある。特に、超高齢社会を迎え大学内の多数の診療科が高齢者医療に関係する研究を実施しており、<u>多数の研究室での高齢者診療に関連する研究動向を統合的に学ぶ機会を提供すること</u>は、新しい視点を持った研究者育成につながると期待される。</p> <p>また、本コースは、実地医療の実習を介した教育だけでなく、<u>論文作成まで</u>を含めた講義や演習を課すことで、問題解決型の新たな研究を遂行できる医療人養成を目指している。日本の在宅医療を含めた未来医療に貢献する総合診療医の教育モデルとなりうるだけでなく、研究者養成も目指す点で独創的である。</p>						
<p>指導体制</p>	<p>&lt;必修科目&gt;</p> <p>◇<b>講義</b>：老年・腎臓内科学講座（楽木宏実教授）が責任者として講義プログラムをとりまとめる。本講義は、他のプログラム参加者も随時受講できるようにする。医学系研究科だけでなく、大阪大学内の多岐の部門が関係しており、医学科教育センターが運用を統括する。</p> <p>◇<b>演習</b>：老年・腎臓内科学講座と緩和医療学寄附講座（恒藤暁寄附講座教授）がそれぞれに実施する。指導責任者は、それぞれの教授とする。</p> <p>◇<b>実習</b>：おおさか往診クリニック（田村学臨床教授）を中心に行う。順次、対応可能な在宅診療施設を追加する。指導スタッフは、大学教員を派遣する場合もある。</p> <p>&lt;選択科目&gt;</p> <p>◆<b>実習</b>：伊丹市立病院老年内科、阪和泉北病院、医療法人協和会などにて実施する。それぞれ責任者は大阪大学臨床教授などである。他のプログラムでも協力を依頼しており、指導スタッフが十分でない場合、大阪大学のスタッフ（本事業で採用予定の特任助教を含む）が同行して指導する。卒業教育開発センターが運用を統括する。</p>						
<p>受入開始時期</p>	<p>平成25年10月</p>						
<p>受入目標人数</p>	<p>対象者</p>	<p>H25年度</p>	<p>H26年度</p>	<p>H27年度</p>	<p>H28年度</p>	<p>H29年度</p>	<p>計</p>
	<p>大学院生</p>	<p>1</p>	<p>1</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>8</p>
	<p>後期研修医・ 非常勤医員・ 研究生など</p>	<p>0</p>	<p>1</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>7</p>
	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p>0</p>
	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p>0</p>
	<p>計</p>	<p>1</p>	<p>2</p>	<p>4</p>	<p>4</p>	<p>4</p>	<p>15</p>

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪大学大学院医学系研究科、大阪大学医学部附属病院						
プログラム・コース名	臨床疫学研究型総合診療医養成コース（阪大Dコース）						
対象者	大学院生、後期研修医、非常勤医員、研究生など総合診療医を目指す医師						
修業年限（期間）	1～5年						
養成すべき人材像	超高齢化社会において全人的医療を行う上でエビデンスが存在するものは1-2割に過ぎない。疾患や生活機能低下に関連する因子を解析することや無作為化比較試験などの介入試験にてエビデンスを創生できる総合診療医を養成する。						
修了要件・履修方法	臨床疫学・臨床統計学の講義・演習・実習の履修ならびにマクマスター大学 Evidence-Based Practice (EBCP) ワークショップの研修を修了要件とする。また、総合診療専門医を含め、総合診療や臨床薬理学、臨床疫学に関する専門医取得のため研修を開始していることも必須とする（専門医資格を既に持つ場合は、専門医の種類によらず要件を満たしているとする）。						
履修科目等	<b>講義</b> ：臨床疫学・臨床統計学（10単位） 総合診療医学（5単位）：一部、阪大Cコースの老年医学・在宅医療学・緩和医学の講義から本コースに適した講義を選択 <b>演習</b> ：臨床疫学・臨床統計学（5単位） <b>実習</b> ：臨床疫学・臨床統計学（20時間） 総合診療医学（20時間）：本学総合診療科と協会の各病院にて実施 <b>研修</b> ：マクマスター大学EBCPワークショップ（5日間）						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	一般には、総合診療医の養成にあたって実地臨床での研修がなされるが、エビデンス創生が求められる超高齢社会においては、臨床能力に加えて、臨床疫学・臨床統計学の能力が求められる。本プログラムは、特に後者に重点を置き、未来の総合診療医としての科学的資質を涵養するプログラムで、独自性が高い。 臨床疫学の理解、EBMの実践のためにも、EBMの教育法を習得しておく必要があるため、カナダのマクマスター大学EBCPワークショップに後期研修中に参加させるが、これも総合診療医養成の観点からは新規性が高い。 総合診療の実習においては、以後の研究の場も考え、急性期医療から慢性期医療、介護医療、緩和ケア医療、在宅医療など幅広い医療に携わっている協和会（北川透理事長・大阪大学医学部特任准教授）と連携する。大学近隣にそれぞれの特徴を備えた複数の病院や施設を展開している団体である。						
指導体制	総合診療部（笠原彰紀部長）がプログラムを統括し、関係機関と調整する。卒業後教育開発センターが運営を支援する。臨床疫学・臨床統計学は医学統計学教室（濱崎俊光准教授）、未来医療開発部データセンターが担当する。協和会系列の病院・施設での指導は、大学教員を派遣する場合もある。						
受入開始時期	平成26年4月						
受入目標人数	対象者	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	計
	大学院生	0	1	1	1	1	4
	後期研修医	0	1	1	1	1	4
							0
							0
	計	0	2	2	2	2	8

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪大学大学院医学系研究科、大阪大学医学部附属病院
プログラム・コース名	リーダー型総合診療医養成コース（阪大Eコース）
対象者	大学院生、大学院修了者
修業年限（期間）	1～4年
養成すべき人材像	超高齢社会にニーズの高い医療人は、単独ですべてを担当できる人材というより、医療・看護・介護・福祉を含めた広範な分野の人材が集う <u>チーム医療においてイニシアティブをとれる人材</u> である。また、今後も <u>ダイナミックな変化が予想される地域の医療問題に対応するには、地域の問題点を抽出し対応策を提言できる研究能力</u> が重要になる。本プログラムでは、大学院での十分な研究体験と高齢者問題と向き合う実地の研究体験を持たせることで、 <u>超高齢社会における医学的問題に対して総合診療的観点から研究できる人材、チーム医療を行うに際して他職種のプロフェッショナリズムを理解できる人材</u> を養成することを目的とする。
修了要件・履修方法	修了要件は、所属大学院の卒業要件単位修了（既に博士号取得の者は不要）に加えて、履修科目の必修科目の <u>講義と実習</u> を修了すること。 老年医学実習（関西SONIC研究に参加して他職種と研究面での交流を図る）の履修については、他職種のプロフェッショナリズムに関する <u>レポート提出</u> と、SONIC研究に関連した <u>研究成果の発表（論文または学会発表）</u> を修了要件とする。 ◆選択科目の実習については、履修を修了要件とはしないが、大学病院や研修病院（高度医療・急性期病院）とは異なる臨床現場を知ることが、ニュータウン再生を意識した場合に重要な視点であり、履修が望ましい。
履修科目等	<必修科目> ◇ <u>大学院単位修了</u> ：所属大学院の卒業要件単位の履修（既に博士号取得の者は不要） ◇ <u>講義</u> （5単位）：教育プログラム・コース（阪大Cコース）の老年医学・在宅医療学・緩和医療学講義のうち、老年医学・在宅医療学関連の講義を単位数分選択して履修 ◇ <u>実習</u> （30時間）老年医学実習： <u>関西健康長寿研究（SONIC研究）</u> に参加し、 <u>レポート提出と研究成果発表</u> を行う。  <選択科目> ◆ <u>実習</u> （40時間）老年医学実習として、公立の市中病院における老年内科、在宅医療の診療所、高齢者の急性期から寝たきりを含む慢性期までを対象とした医療機関、老健施設を持つ医療機関などにおける、見学を含めた実習。

<p>教育内容の特色等 (新規性・独創性等)</p>	<p>高齢者の健康長寿要因を探る地域におけるコホート研究に参加することを必修科目の実習に組み込んだ点に特色がある。関西SONIC研究と呼ぶもので、関西の都市部（伊丹市）と農村部（朝来市）の2か所において、70歳、80歳、90歳の年齢の方を各500名登録し、それぞれ3年ごとにフォローするコホート研究である。100歳以上高齢者については随時調査を行っている。研究参加施設が大阪大学の医学系研究科だけでなく、保健学専攻（看護学）、歯学研究科（口腔衛生）、人間科学研究科（社会学、心理学）、地域の行政（保健師など）と多岐にわたり、それぞれが観察する観点を学ぶことができる。高齢者を対象とした総合診療に必要な人材との交流を図り、チーム医療におけるリーダーとなり資質を涵養することを期待できる独創性の高いプログラムである。</p>						
<p>指導体制</p>	<p>◇講義： 老年・腎臓内科学講座（楽木宏実教授）が責任者として講義プログラムをとりまとめる。個々の講義指導は、教育プログラム・コース（阪大Cコース）の老年医学・在宅医療学・緩和医療学の講義に関係する部署が行う。医学系研究科だけでなく、大阪大学内の多岐の部門が関係しており、医学科教育センターが運用を統括する。</p> <p>◇実習： 必修科目の実習の指導は、老年・腎臓内科学講座と保健学専攻総合ヘルスプロモーション科学講座（神出計教授）が行う。年に2回以上の健康診断を含む生活調査、健康調査を関西地区にて実施しており（関西SONIC研究）、実地調査とデータ解析を含めた研究の機会を用いて指導を行う。 選択科目の実習は、伊丹市立病院老年内科、おおさか往診クリニック、阪和泉北病院、医療法人協和会などにて実施する。それぞれ責任者は大阪大学臨床教授などである。他のプログラムでも協力を依頼しており、指導スタッフが十分でない場合、大阪大学のスタッフ（本事業で採用予定の特任助教を含む）が同行して指導する。卒後教育開発センターが運用を統括する。</p>						
<p>受入開始時期</p>	<p>平成25年10月</p>						
<p>受入目標人数</p>	<p>対象者</p>	<p>H25年度</p>	<p>H26年度</p>	<p>H27年度</p>	<p>H28年度</p>	<p>H29年度</p>	<p>計</p>
	<p>大学院生</p>	<p>1</p>	<p>3</p>	<p>3</p>	<p>3</p>	<p>3</p>	<p>13</p>
	<p>大学院修了者</p>	<p>1</p>	<p>2</p>	<p>0</p>	<p>0</p>	<p>0</p>	<p>3</p>
	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p>0</p>
	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p>0</p>
	<p>計</p>	<p>2</p>	<p>5</p>	<p>3</p>	<p>3</p>	<p>3</p>	<p>16</p>

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪大学医学部附属病院
プログラム・コース名	地域密着型総合診療医養成コース（阪大Fコース） （インテンシブコース）
対象者	後期研修医、一般医師（開業医、病院勤務医など）
修業年限（期間）	1～2年
養成すべき人材像	<p>◇後期研修医あるいは地域で活躍している医師は疾病の診断と治療の技能を高めるため日々努力しているが、病院あるいは診療所という勤務形態のために、幅広く高齢者医療の社会医学的現状やその医学的対策、高齢者の実地臨床の先進技術、介護ロボットなどの技術に触れることはない。</p> <p>◇本事業で実施される様々なプログラムの一部を提供することで、広い視点から高齢者医療に携わる医師を養成することを目指す。</p> <p>◇<u>高齢者医療や総合診療に携わる医師の人口増だけでなく、その医療技術のレベルアップ、先進医療や介護システムの早期導入の推進に貢献できる人材の養成を目指す。</u>千里ニュータウン再生構想に地域在住の医師として積極的に関与できる人材の養成でもある。</p>
修了要件・履修方法	<p>以下の3項目を修了要件とする。</p> <p>1. <b>講義</b>：e-ラーニングを主体にした講義（5単位以上） 教材は阪大Cコースの老年医学・在宅医療学・緩和医療学などから作製。個々に認定試験を実施して、合格した講義を単位に換算する。</p> <p>2. <b>研修会</b>：下記のa. b. いずれかの研修会の修了（既に終了している場合は修了証の提出のみ） a. 日本老年医学会主催「高齢者医療研修会」または全日本病院協会主催「総合評価加算に関わる研修」（内容は同じ） b. 在宅医療推進のための地域における「多職種連携研修会」</p> <p>3. <b>選択科目</b>：下記のa. b. いずれかの履修 a. <b>集中講義</b>の受講（8時間）：実習内容のエッセンスについての講義 b. <b>選択科目</b>の実習（12時間）プログラム受講者個々の置かれている診療体形にあわせて可能な実習に参加する。実習参加については、卒後教育開発センターにて関係部署と調整して行う。</p>
履修科目等	<p>&lt;必修科目&gt; <b>講義</b>（5単位）：教育プログラム・コースの阪大Bコースから臨床医工学の講義を、阪大Cコースから老年医学・在宅医療学・緩和医療学の講義を単位数分選択して履修。基本的には、e-ラーニングで受講し、その都度、認定試験を実施する。</p> <p>&lt;選択科目&gt; a. <b>集中講義</b>：阪大Bコースおよび阪大Eコースの実習内容についての集中講義。（8時間） b. <b>実習</b>：阪大Bコースの必修科目及び選択科目の実習および阪大Eコースの選択科目の実習から選択（12時間以上）</p>

<p>教育内容の特色等 (新規性・独創性等)</p>	<p>本事業で立ち上げる5つのプログラム・コース(阪大A～Eコース)の教材を利用して、地域で活躍する医療従事者に、総合診療、高齢者医療、在宅医療などに関心を持ってもらい、<u>成果を地域に還元すること</u>を特徴としたプログラムである。</p> <p>一例として、阪大Bコースの実習では、医療面への応用が大いに期待される介護ロボットの種類、開発中のロボット、実際の操作、適応などについての最新情報を包括的に教育する。試験的に介護ロボットを実際の診療の現場で応用できるように実地訓練も組み込んでいる。在宅介護を担う開業の実地医家ないし整形外科・リハビリ担当医師が、地域において介護ロボットを応用する中心的役割を担いえる。</p> <p>このように、<u>履修者の医師としてのバックグラウンドにあわせて、柔軟性を持って受講できるインテンシブコース</u>であることが大きな特徴である。本プログラム履修者に対しては、地域での総合診療や高齢者医療におけるリーダーシップやその補助を期待できる。</p> <p>修了要件に、高齢者医療に重要なポイントとなる2つの研修会修了を入れたことは、<u>厚生労働省が進める高齢者医療政策の一端を知る意味でも重要であり、研修内容が充実していることから、本プログラムでの講義や実習と組み合わせることで、応用範囲が確実に広がる</u>。</p> <p>このような、<u>プラクティカルな内容と先進性の高い内容を融合することで、実地医家の方々の高齢者医療に対する積極性を引き出そうとする点に新規性がある</u>。</p> <p>事業のテーマの一つである「地域に生きる」を実践するためのプログラムであり、地域医師会との連携を図ることに活用し、<u>千里ニュータウン再生に積極的に参加いただく医療従事者の拠点形成を目指しており、最終目的に向けたプログラム</u>という点で重要であり、かつ独創的と考える。</p>						
<p>指導体制</p>	<p>e-ラーニングによる講義は、他のプログラムでの講義内容を基にしており、それらの指導体制が本コースの運営にあたる卒後教育開発センターを支援する。集中講義は、老年・腎臓内科学(楽木宏実教授)と総合地域医療学寄附講座(山下静也教授)が担当する。</p> <p>選択科目実習は、運営を卒後教育開発センターが行い、個々のプログラムにおける指導者が指導にあたる。</p>						
<p>受入開始時期</p>	<p>平成27年4月</p>						
<p>受入目標人数</p>	<p>対象者</p>	<p>H25年度</p>	<p>H26年度</p>	<p>H27年度</p>	<p>H28年度</p>	<p>H29年度</p>	<p>計</p>
	<p>後期研修医</p>	<p>0</p>	<p>0</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>6</p>
	<p>一般医師</p>	<p>0</p>	<p>0</p>	<p>4</p>	<p>5</p>	<p>6</p>	<p>15</p>
	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p>0</p>
	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p>0</p>
	<p>計</p>	<p>0</p>	<p>0</p>	<p>6</p>	<p>7</p>	<p>8</p>	<p>21</p>

# 地域に生き世界に伸びる総合診療医養成事業 ～超高齢社会を切り拓くリーダー型高度医療人養成～

課題

- ◇ニュータウンでの高齢者人口の爆発的増加が進行しており、街の活性化だけでは、10数年後の独居・老々世帯の増加による医療問題に対応できない。
- ◇10数年後の地域包括ケアの視点を入れたニュータウン再生には、地域の問題点を抽出でき、地域の医師の教育も担えるリーダーの養成が急務
- ◇現状では、海外のニュータウン再生プランとしての輸出産業とはなりえない。

対応

- ◇医学生の問題提示力と未来の医療を描く力の涵養
- ◇ニュータウン再生に必要な真のリーダー型総合診療医養成
- ◇地域と連携した予防・医療・介護体制構築と総合診療医供給
- ◇ニュータウン再生に情報発信できる学際的研究からの提案
- ◇世界のニュータウン再生への提案

## 大阪大学高度医療人養成事業推進協議会

プログラム推進事務局  
医学科教育センター  
卒後教育開発センター

事業管理委員会

### 大阪大学 医学系研究科・医学部附属病院

保健学専攻  
歯学研究科  
人間科学研究  
(関西健康長寿研究)

工学研究科  
(都市再生)

MEIセンター  
(介護ロボットなど)



千里地区の  
在宅診療所

協和会, 錦秀会  
(多様な形態の  
病院・施設群)

伊丹市立病院  
老年内科

市立堺病院  
総合内科

千里ニュータウンにおける  
地域包括ケアシステム推進

**超高齢社会  
を切り拓く  
リーダー型  
総合診療医  
の養成**

吹田市  
豊中市

吹田市  
医師会

地域包括  
支援センター

患者代表

MEIセンター: 臨床医工学融合研究教育センター

プログラム管理委員会(6委員会)



医学生



研修医



大学院生



指導医  
実地医家

### A 高齢者医療卒 前教育コース

キャリア教育, プライマリケア  
カンファ, 海外老年学研修

### B 医工連携開発 型総合医コース

介護ロボット, 未来医療

### C スーパー在宅 医コース

老年医学・在宅医療・緩  
和医療+150時間実習

### D 臨床疫学研究 型総合医コース

臨床統計・高齢者EBM

### E リーダー型総 合医コース

関西健康長寿研究, 問  
題抽出・研究型リーダー

### F 地域密着型総 合医コース(イン テンシブコース)

地域の医師の啓発～  
高齢者実地診療支援

## 千里ニュータウン



千里ニュー  
タウン再生

大阪大学老年学  
学際研究部門構想

養成した人材の研究・社会貢献発展



世界のニュータウン再生